

高槻，枚方地域における先天性心疾患，神経筋疾患の調査

茂 在 敏 司（大阪医大）

I 先天性心疾患児の正確な把握は乳児検診のみでは不十分であり，小中学校における検診，特に循環器検診が非常に重要な役割をもっている。此の点に注目し，各種先天性疾患の頻度を明らかにしようとした。調査地域としては高槻市，枚方市をえらんだ。両市は規模において類似し，此の種の調査をすべく十分な人口をもつものと考えられた。また両地域は淀川をはさんで相対しており，ともに大阪の衛生都市であるが，枚方地域は旧東海道に面し，古くから定住する者が少なくないのに対し，高槻市の住民には最近各地より移り住んだ者が少なからぬ部分をしめている。

両地域において可能な限りの全小学，中学生徒について全く同様の方法を用いて心疾患を中心とする循環器検診を行った。

検査は三段階にわけて行われた。第一段階は①アンケート調査 ②校医による診断 ③前年度検診の成績を総合したスクリーニング，第二段階は第一段階操作により選出された要精検者についての①問診 ②打聴診 ③胸部X線所見 ④心電図所見 ⑤血圧 ⑥尿検査所見を総合しての診断，第三段階は入院の上心カテーラル検査，心血管造影などを含む精密検診による診断である。また外科手術適応と診断され，実際に手術をうけた例については臨床診断の確認を行った。これにより乳幼児時死亡を除く先天性心疾患の殆どすべてが把握され得ると考えられた。

以上の調査に関し，昭和50年，51年の成績を整理した成績は表1の如くである。

表1

地 域 年 度	高 槻 地 区		枚 方 地 区	
	昭和50年	昭和51年	昭和50年	昭和51年
検 診 数	41,770	48,371	36,950	36,620
心房中隔欠損症	21	25	12	12
心室中隔欠損症	34	46	25	25
動脈管開存	6	6		1
Fallot四徴症	4	10	4	4
肺動脈狭窄症	3	6	1	1
大動脈弁狭窄症		1		
心内膜欠損症		2		
計	68	96	42	43

この2年にわたる検診対象の大部分は重複している。昭和50年と昭和51年の差は，昭和51年度小学校入学児が加わる一方，昭和50年度中学校卒業者が昭和51年度検診の対象からはずれたにすぎない。実際に各年度検診対象者の85%は共通していた。この点から考えれば，両年度検診において把握される先天性心疾患児の数に大きな差はないのが当然である。実際に枚方市では両年度とも殆ど同数であった。しかし高槻市においては昭和50年度68名から昭和51年度96名とかなり増加している。その理由は不明であるが，高槻市では昭和50年度検診総数に対し昭和51年度検診総数は凡そ20%増となっていることが指摘される。又両年度における枚方市の先天性心疾患発見率，昭和50年度高槻市における発見率は0.12%乃至0.16%と一般に考えられるよりも可成り強い値を示しており，昭和51年度高槻市における発見率が予期値に近付いていることが指摘される。此の点については，スクリーニングの段階において，専門的な立場からのチェックが入らなかった点が反省される。軽症のものがおとされている可能性は否定できない。

みつけられた先天性心疾患の内容をみると，心室中隔欠損症が最も多く（高槻地域47.9%，枚方地域58.1%），心房中隔欠損症（高槻地区26.0%，枚方地区27.9%），Fallot四徴症（高槻地区10.4%，枚方地区9.3%）がこれにつづき，両地域に差を認めず，本邦人一般についてみた高雄らの成績と略々同様であった。

以上の如く、高槻、枚方両地域において昭和50年、51年小中学生循環器検診の結果、高槻市においては0.2%、枚方市においては0.12%に先天性心疾患児を把握した。両地域における先天性心疾患の内容は略々同じく、また本邦人一般について示された成績と略々同じであった。

II 一般児に対し、心身障害児における先天性心疾患の実態を知る目的で、大阪府立高槻養護学校における先天性心疾患について調査した。此の学校に在籍するものは325名で、そのうち小中学部は男女221名、高等部男女計104名である。一方先天性心疾患を有すると診断された者は小中学部12名、高等部2名であった。生徒は精神および四肢運動機能障害により入学し、心疾患については全く考慮されずに入学したものであるから、これら生徒の間の先天性心疾患有病率は4.3%（小中学部のみでは5.4%）と一般児に比し極めて高い。その内容は表2に示す。

235名中ダウン症が85名36%をこめ、また表にみる如く、先天性心疾患14例中10例にダウン症にみられたものである。即ちダウン症における先天性心疾患合併率は11.8%と極めて高い。その内容は心室中隔欠損症が7例で最も多かったが、そのほかにEisenmenger症候群1例、僧帽弁閉鎖不全2例がみられ、心室中隔欠損症でも肺高血圧症又は右室肥大を伴うものが各1例みられた。ダウン症を除いた生徒における先天性心疾患の合併はなお2.7%を示し、一般児に比し高いが、その内容については今後の検討にまちたい。

以上の如く、養護学校生徒における先天性心疾患有病率は一般生徒に比し著しく高く、特にダウン症児では11.8%と高値を示した。そこでその過半数は心室中隔欠損症であった。ダウン症を除いた残余の生徒においても先天性心疾患有病率は一般生徒に比しなおかなり高いようである。

学年	ダウン症			先天性心疾患			ダウン症 先天性心疾患			ダウン症における 先天性心疾患の内容			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計				
小 学 部	1	9	6	15	1	1	2		3	3	2	2	心室中隔欠損症2例
	2	9	5	14	1	2	3		0		0	0	
	3	20	6	26	7	1	8	1	1	1	1	1	Eisenmenger症候群 心室中隔欠損症 心室中隔欠損症+肺 高血圧症 僧帽弁閉鎖不全症 心室中隔欠損症
	4	17	11	28	10	3	13	4	4	3	3	3	
	5	17	12	29	3	6	9		0		0	0	
	6	20	8	28	7	3	10	1	1	1	1	1	
中 学 部	1	12	10	22	3	4	7	1	1	1	1	1	僧帽弁閉鎖不全症
	2	15	13	28	5	6	11		0		0	0	
	3	18	13	31	2	3	5	1	1	2	1	1	2
高 等 部	1	23	13	36	3	3	6	1	1			0	
	2	19	16	35	2	3	5	1	1			0	
	3	20	13	33	6	0	6		0		0	0	
計	199	126	325	50	35	85	6	8	14	5	5	10	

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

1 先天性心疾患児の正確な把握は乳児検診のみでは不十分であり,小中学校における検診,特に循環器検診が非常に重要な役割をもっている。此の点に注目し,各種先天性疾患の頻度を明らかにしようとした。調査地域としては高槻市,枚方市をえらんだ。両市は規模において類似し,此の種の調査をすべく十分な人口をもつものと考えられた。また両地域は淀川をはさんで相対しており,ともに大阪の衛生都市であるが,枚方地域は旧東海道に面し,古くから定住する者が少ないのに対し,高槻市の住民には最近各地より移り住んだ者が少なからぬ部分をしめている。